

日和佐中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得について、個に応じた指導の工夫・改善をする。
- ② 言語活動の充実を図り、思考力を高め、自己表現力・コミュニケーション能力を高める。
- ③ 生徒の主体的な学習を促す指導の工夫・改善をする。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
坂部 美枝 <small>(2年特支担任・研修主任)</small>	・校長(総括)向原 敬夫 ・教頭(総務)龍田 雅和 ・米田 翔(3年担任・進路指導・生徒会) ・氏原 裕真(3年副担任・環境教育・緑化推進) ・大田 澄江(1年主任・総合学習・国際理解) ・曾我部 郁也(1年副担任・ボランティア教育)

美波町立日和佐中学校長

向原 敬夫



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 基礎的・基本的な知識・技能を習得するための計算練習・漢字練習・単語練習等の課題に、真面目に取り組むことができる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②毎日の宿題や課題を確実にやり切ることができる。	①定期テストの基礎・基本の知識を問う問題において正答率80%以上。②宿題をやり切る生徒数90%以上。③生活記録を全行書ける生徒数95%以上。			
課題 授業や課題には真面目に取り組んでいるものの、基礎・基本が定着していない生徒もいる。	具体的方策(教員の取組) ①定期テスト前に基礎・基本の小テストを実施する。不合格者には再テストを実施し、粘り強く基礎・基本の定着を図る。 ②生活記録指導で語彙力と作文力を付ける。	取組指標 ①定期テスト前には、各教科で最低1回は小テストを実施する。 ②毎日、生活記録を6行以上書かせる指導をする。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 興味や関心がある学習内容について、自ら考えて豊かに表現することができる。	①目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えをわかりやすく書いたり説明したりすることができる。 ②探究的で粘り強く課題に取り組むことができ、深い思考力や豊かな表現力が身についている。	①根拠を明らかにして、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは得意と答える生徒数80%以上。			
課題 話すこと、書くことを苦手としている生徒が多い。また、テストや課題等の記述式の問題、応用問題を苦手とする生徒が多く、それらの問題では無回答が多い。	具体的方策(教員の取組) ①全ての教科で思考や考察の過程での学習活動に創意・工夫を凝らし、言語活動を充実させる。 ②生徒が興味を持ち自ら考えてみようとする授業を創造するとともに、教師がお互いに参観し研鑽する。	①生徒が自分の考えを筋道を立てて発表する機会を一週間に1回以上つくる。 ②研究授業を年間1人1回以上。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 与えられた役割や課題に真面目に取り組む、宿題等の提出率も高い。部活動や、陸上の朝練習に積極的に参加し、自己を鍛え、高めようとする生徒も少なくない。	①課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ、自信を持つことができる。 ②将来の進路に対する目標を持ち、そのために努力できる。 ③家庭学習に意欲的・計画的に取り組むことができる。 (「家庭学習の記録」の活用)	①主体的に学習に取り組んでいる生徒数70%以上。②毎日の家庭学習時間90分以上70%以上。③総合や課題研究で調べたり、考えてまとめていくことは楽しいと答える生徒数90%以上。④将来の進路の目標を持っている生徒数60%以上。			
課題 授業に対して受け身の姿勢の生徒が多い。また自分から課題を見つけて学習することは苦手である。	具体的方策(教員の取組) ①生徒の主体的な活動や体験を授業に多く取り入れる。 ②定期テストの一週間前から「定期テストの目標と家庭学習の記録」を提出させる。毎日、目を通し、必要な支援を行う。 ③毎日、家庭学習の記録を記入させる。	①授業の中で生徒の主体的な活動を賞賛していく。②授業で発言しやすい発問の工夫を工夫し、意欲的に発言した生徒を賞賛する。③毎日、家庭学習時間調査を実施する。		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ



